



全業種

回答数318社

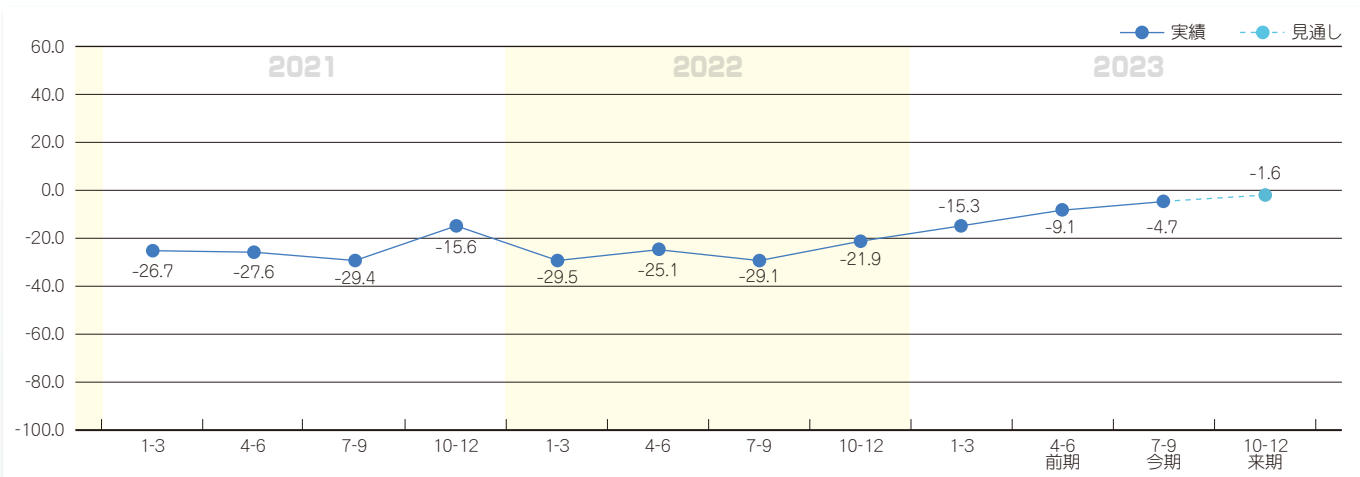
今期の業況D-Iは、前期比4.4ポイント上昇の▲4.7と、4期連続で改善。卸売業を除くすべての業種で改善した。

来期の予想業況D-Iは、3.1ポイント上昇の▲1.6と、来期も回復基調が続く見通し。小売業を除くすべての業種で改善を見込む。

全業種人手D-Iは▲20程度で推移しており、すべての業種で人手不足を課題としている。

前期実績 今期実績 来期見通し

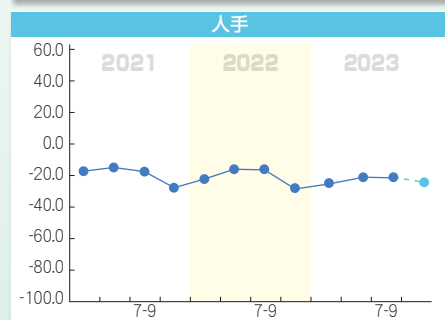
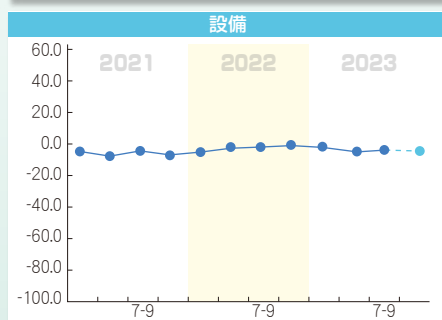
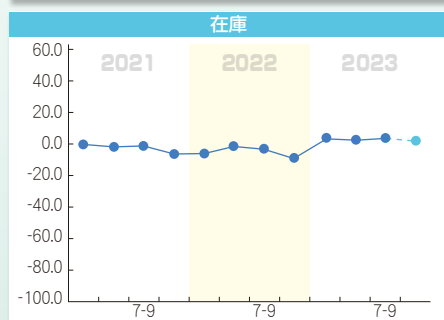
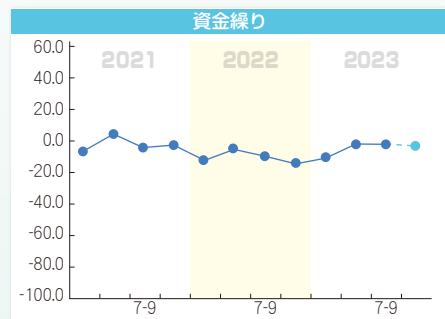
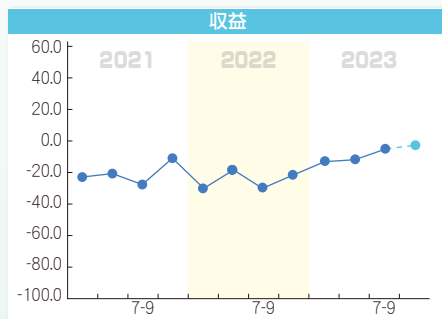
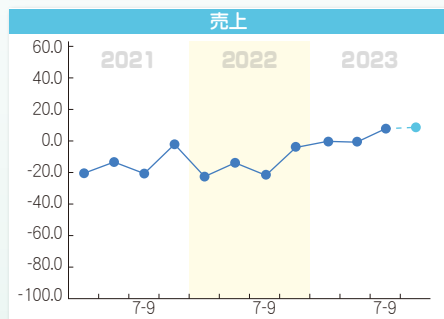
業況D-I
の推移



主要D-Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



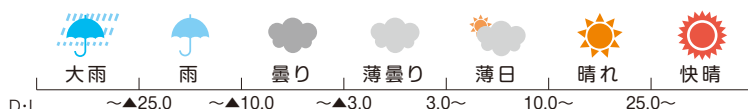
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

実施時期 2023年9月1日～7日
対象企業 318社
対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)-(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。



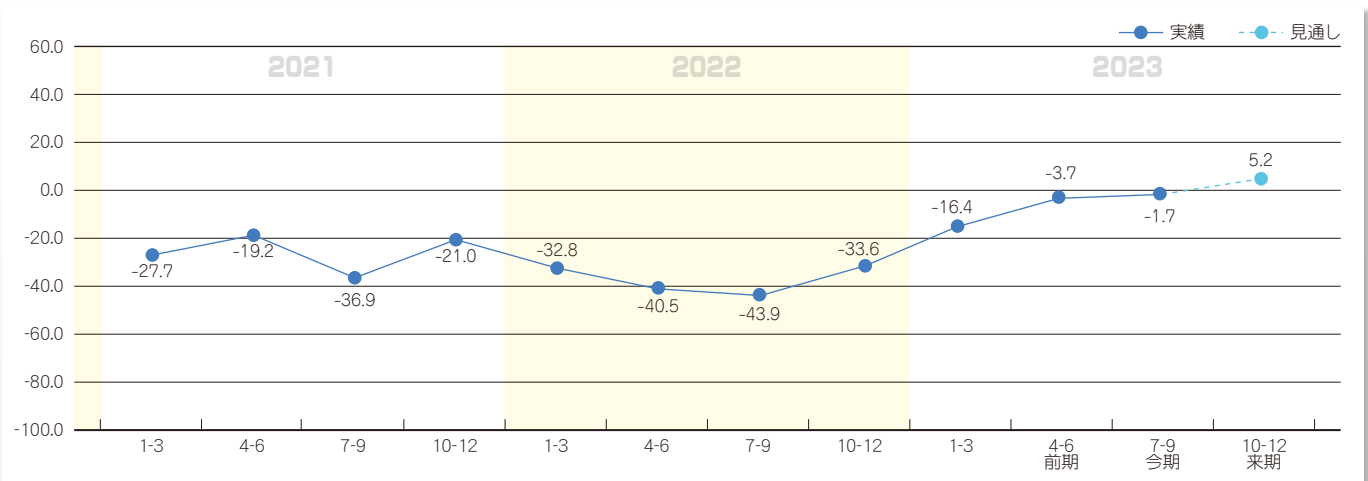
製造業

回答数115社

今期の業況D・Iは、前期比2.0ポイント上昇の▲1.7と4期連続で改善した。前回調査に引き続き、自動車産業を中心に受注、売上が好調との声が多い。原材料価格高騰が続くなか、経費削減や価格転嫁等により対応する企業が多く、収益も上昇基調継続。来期の予想業況D・Iは6.9ポイント上昇の5.2と、改善が続く見通し。人手不足に課題が残るとの声も聞かれる。

前期実績 今期実績 来期見通し

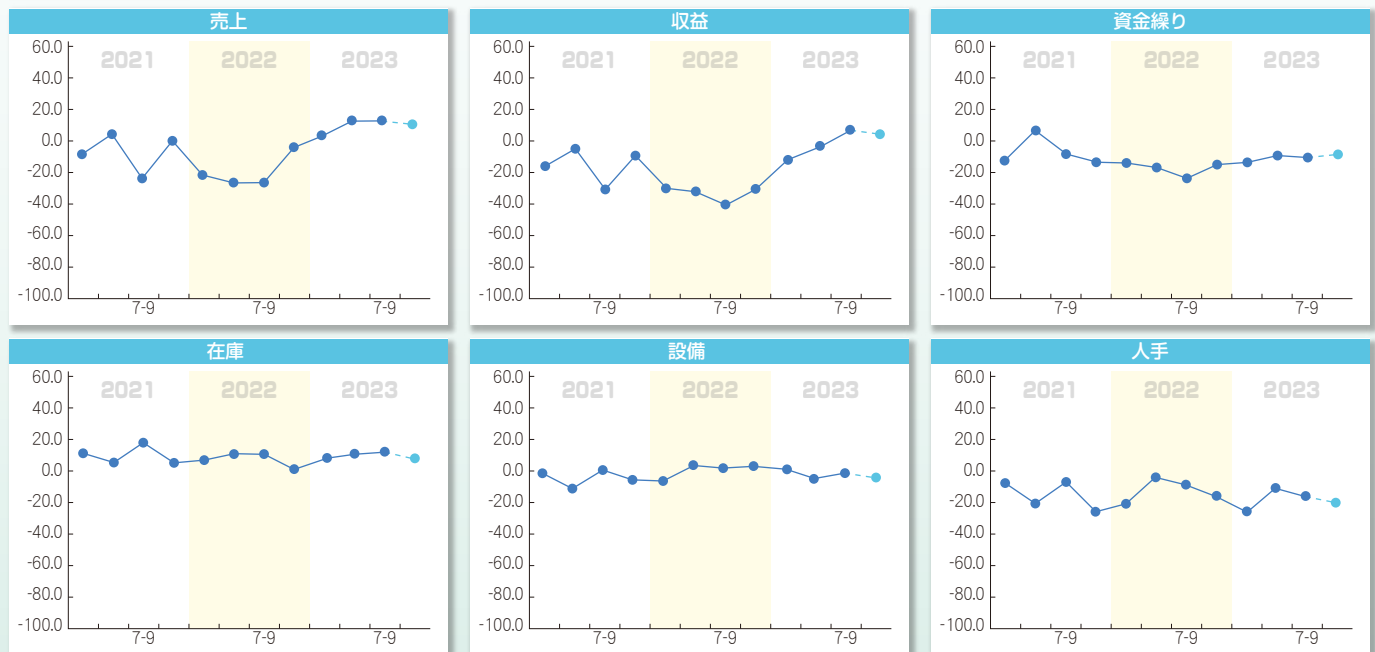
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 自動車メーカーの増産に伴い、受注は増加傾向にある。販売価格への転嫁が進んでおり、収益力の改善を期待。(金属加工)
- 原油価格高騰による経費圧迫を懸念。現状、単価交渉と経費削減に努めている。(自動車部品製造)
- コロナ禍より売上、利益が増加し業況回復傾向であったが、経費や原材料価格高騰により厳しい状況となっている。人材確保にも課題あり。(プラスチック加工)
- 受注増加のために人材採用に注力しているが、苦戦中。(工作機械)



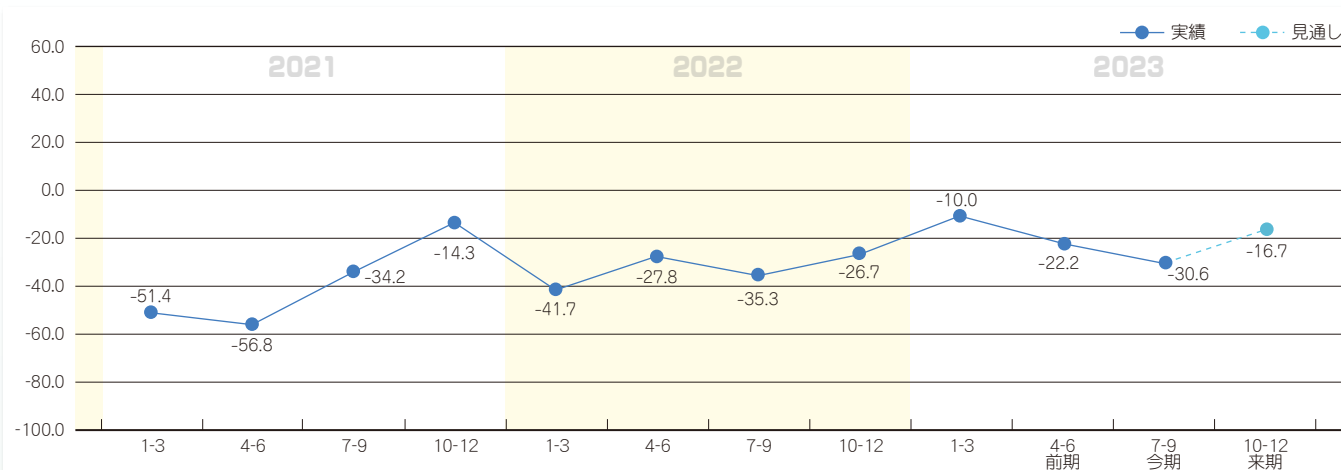
卸売業

回答数36社

今期の業況D・Iは、前期比8.4ポイント低下の▲30.6と悪化。売上は回復した一方で収益は伸び悩む。仕入価格等コスト上昇分の価格転嫁に苦慮する企業が多いことがうかがえる。来期の予想業況D・Iは13.9ポイント上昇の▲16.7と、改善の見通し。仕入価格の上昇が落ち着くことを見込む声もあり、売上とともに収益も改善の見込み。

前期実績 今期実績 来期見通し

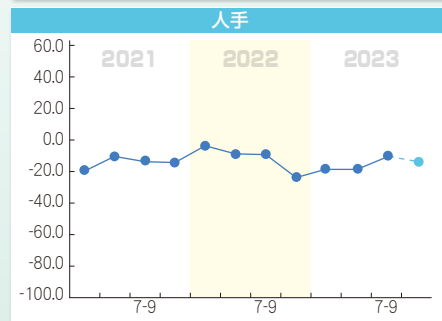
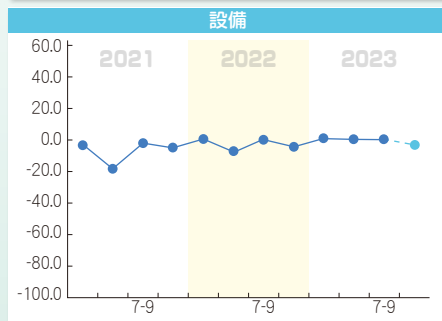
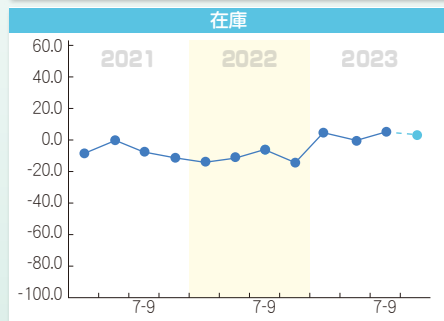
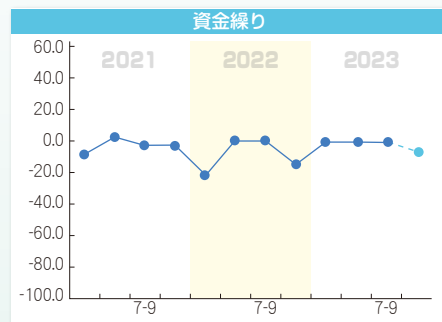
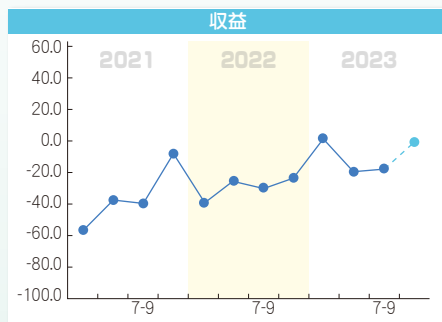
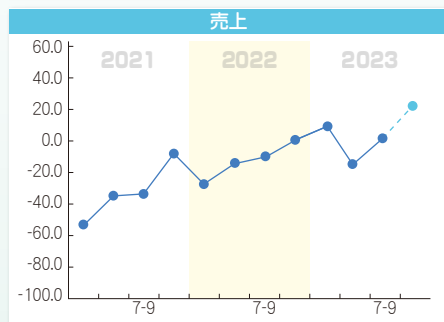
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 売上は戻りつつあるが、実態としては販売価格高騰によるものであり、販売数は伸び悩んでいる。(食品卸売)
- 依然業況は厳しいものの、10月以降仕入価格の低下が見込まれており、収益は今後少しずつ向上していく予定。(土砂卸売)
- 業況は今のところ芳しくないが、受注先は増加傾向にある。(建築資材卸売)
- 零細企業の縮小が起こっており、大手からの受注増加をねらい営業強化を図っていく。(機械器具卸売)



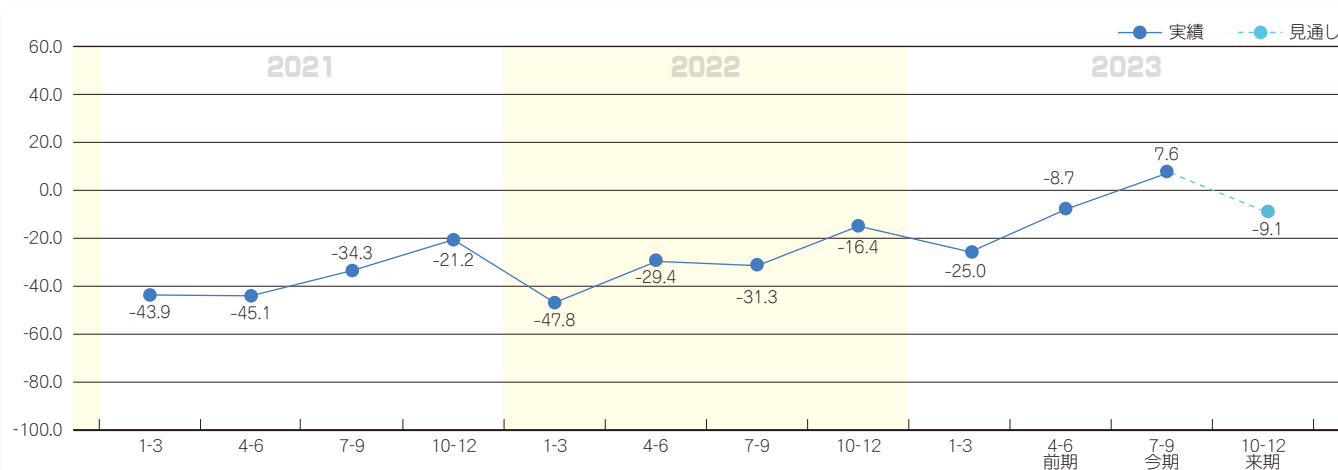
小売業

回答数66社

今期の業況D・Iは、前期比16.3ポイント上昇の7.6と、2期連続で改善しプラスとなった。天候不順による客足の減少も見られたが、商品見直しや価格改定、差別化など、売上や収益改善に向けた取り組みが実を結んだとの声がある。来期の予想業況D・Iは16.7ポイント低下の▲9.1。個人消費低迷など不安要素は依然多く、悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

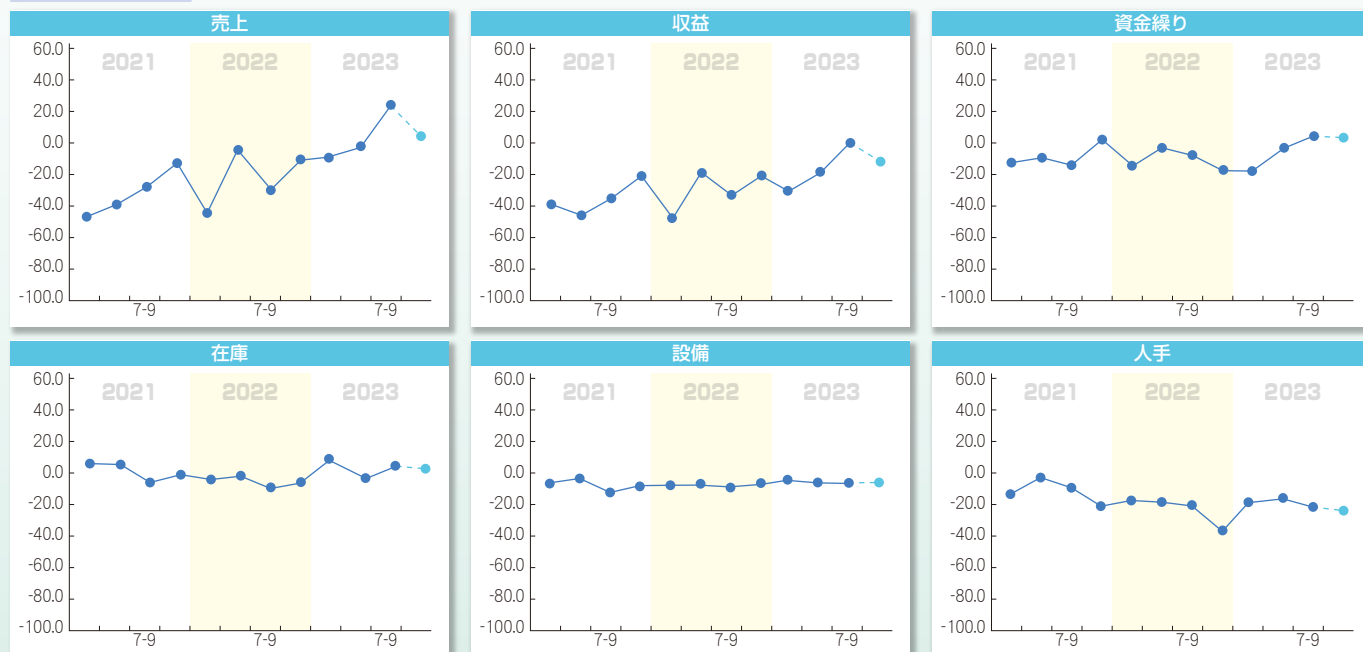
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- パッケージデザインを一新した効果もあり、売上好調。仕入価格高騰に伴い販売価格を引き上げた。(化粧品販売)
- 大手家電量販店にはないきめ細やかなアフターサービスを実施し、売上につなげている。(家電製品販売)
- 新型コロナの分類変更以降、徐々に売上回復傾向。新商品取り扱いも開始し、売上確保に努める。(ギフトショップ)
- 車両在庫が減ってきている。在庫保管用地等の不動産をうまく活用したい。(自動車販売)



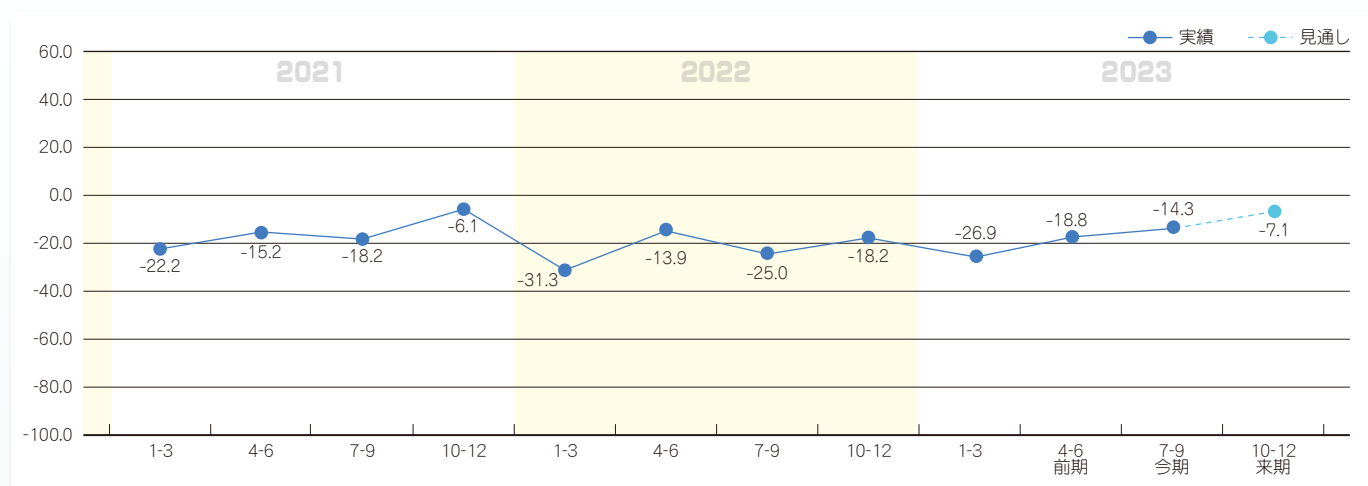
サービス業

回答数28社

今期の業況D・Iは、前期比4.5ポイント上昇の▲14.3。2期連続での改善となったものの、売上、収益ともに悪化。とりわけ人手不足感が強く、人材確保・育成を課題として力を入れていくとする声が多い。来期の予想業況D・Iは7.2ポイント上昇の▲7.1と改善の見通し。売上、収益ともに回復を見込む。

前期実績 今期実績 来期見通し

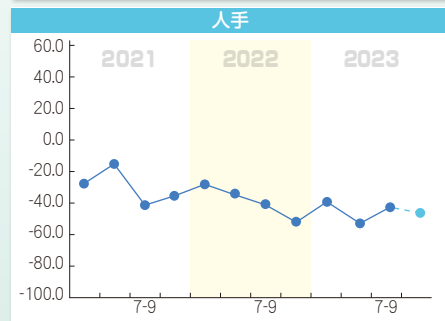
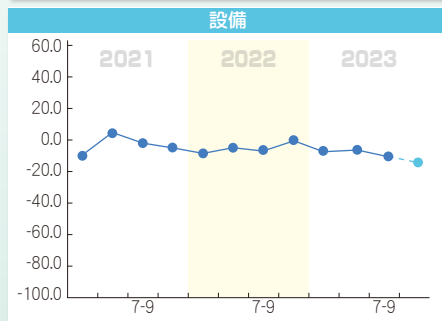
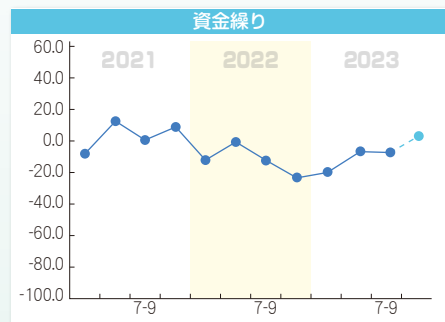
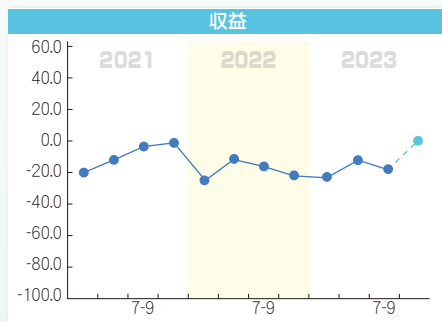
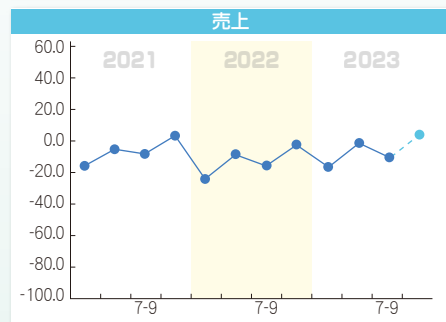
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注) 設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 原材料価格高騰に伴い値上げをしたが、固定客が離れることはなく安定した売り上げを確保。今後は人材育成に力を入れていきたい。(エステティックサロン)
- 材料価格上昇の影響はあるものの、10月に控えた新店舗オープンにより売上と収益は増加見込み。(クリーニング店)
- 人材不足が課題。一定の受注は確保しており、堅調推移。(自動車整備業)
- コロナ融資の無利子期間終了に伴い返済計画についての相談も多い。顧客に寄り添い、パートナーとなるような活動を心掛けている。(税理士法人)



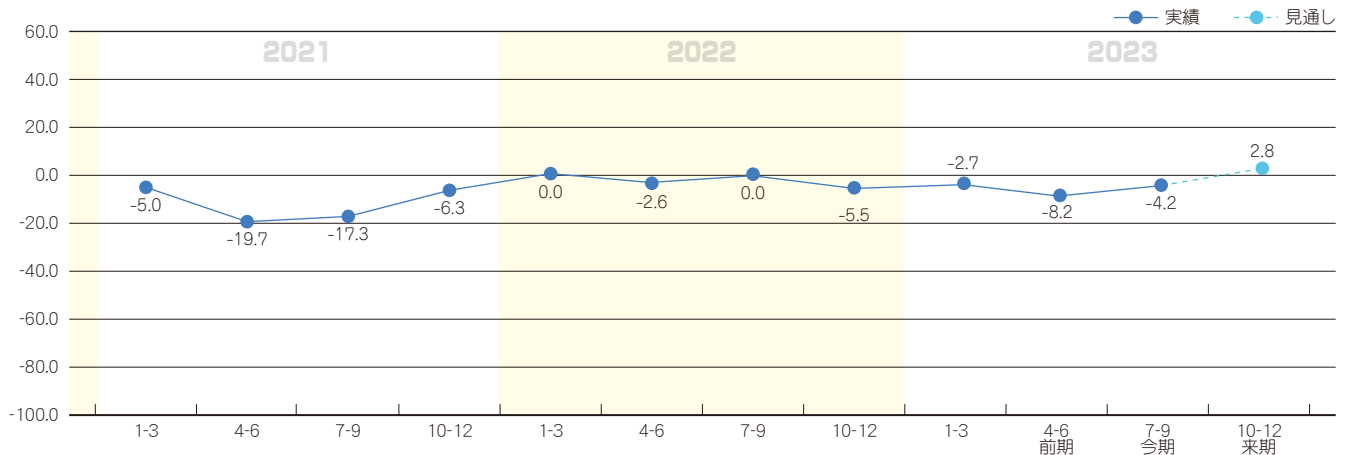
建設・不動産業

回答数72社

今期の業況D・Iは、前期比4.0ポイント上昇の▲4.2となり、改善。受注が好調で売上が増加したとの声が多く聞かれた。一方で、資材価格や地価上昇の影響が続いており、価格転嫁のほか経費削減や差別化等に取り組んでいるものの、収益が圧迫されている企業が多い。来期の予想業況D・Iは7.0ポイント上昇の2.8と、改善の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

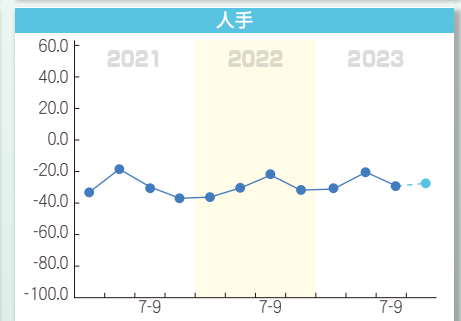
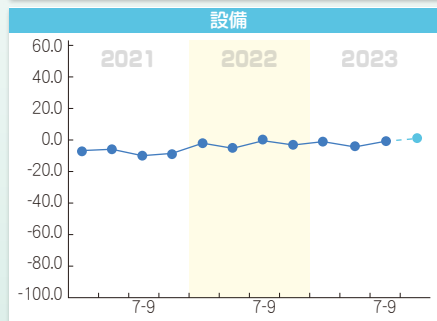
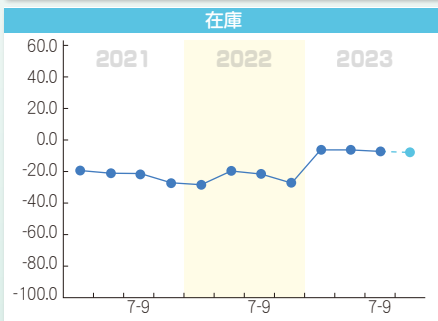
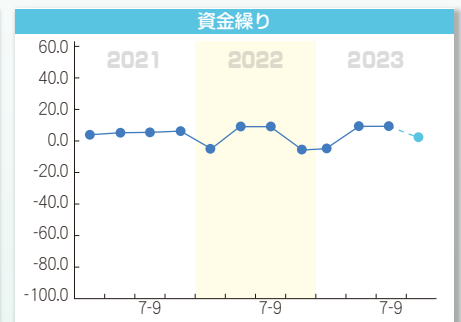
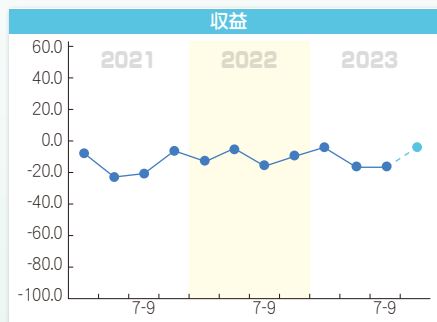
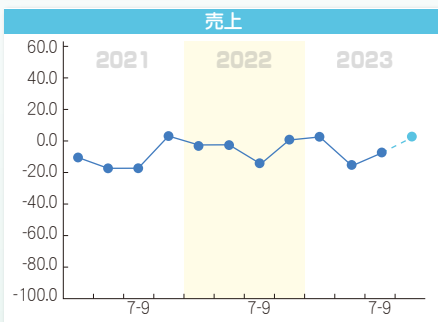
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 公共工事を中心に受注は好調に推移している。ただし、受注の中心である地域の整備が完了しつつあり、将来的な受注の減少懸念がある。(土木工事)
- リースの見直し等、経費削減を試みている。(建設業)
- メイン先からの受注が増加し、順調に推移。価格高騰を見据えて多めに仕入れている。(管工事業)
- 地価および資材高騰のため、価格設定が難しく販売が伸び悩んでいる。(戸建て分譲)

